

## 令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：帯広地区
- 2 事例報告学校名：帯広市立広陽小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 野田 淳
- 4 キーワード：地域・保護者との連携・協働

### 1 はじめに

帯広市立広陽小学校は、帯広の副都心を形成している場所に、マンモス化解消と時代の要請に応えるべく、地域に開かれた学校として昭和54年に開校された。本校の特色は、新しい学校教育に対応するために、ワークスペース、マルチパーサルーム、プレールームなどのオープンスペースを備えている点にある。体育館やオープンスペースは、コミュニティ・スクールとして地域住民のスポーツ・文化活動などにも活用され、アートインスクールの場としても活用されている。



このような環境の中で、本年、令和3年度より学校力向上に関する総合実践事業の地域指定型の中核校に指定された。近隣の小中2校と共に、一人一台端末を使った効果的な指導法や働き方改革へ向けた学校改善に積極的に取り組んでいる。地域やPTAの学校教育に対する関心は高く、広陽フェスタ・各種行事などの交流や学校支援ボランティアの協力を得ながら、地域と学校が連携して健やかな子どもを育んでいる。本レポートでは、地域、保護者との連携・協働に基づいた実践について報告する。

### 2 学校支援ボランティア

#### (1) 学習支援

夏休み・冬休みの始めに、ボランティアの皆さんが、図書室や低学年マルチルームいっぱいに広がって学習する子どもたちに優しく勉強を教えてくれている。昨年、今年はコロナ禍の為、開催できていないが、今後も長く継続していきたいと考える。



#### (2) 図書ボランティア「ミッケ！」

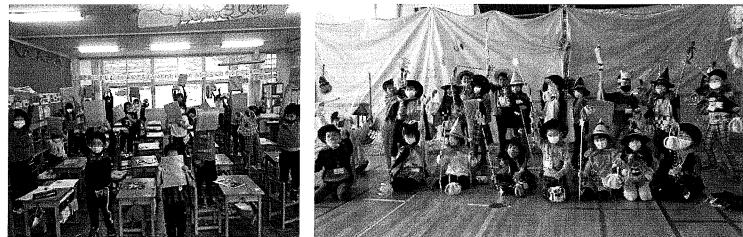
今年度17年目を迎える図書ボランティア「ミッケ！」。朝や昼の読み聞かせだけでなく、季節に応じた楽しいスペシャル企画を子どもたちに提供してくれている。また、毎週木曜日には、図書室の整備ボランティアもしていただき、いつもきれいな図書室が保たれている。

四季折々の飾りつけも、「ミッケ！」の皆さんの作品である。今年度は、緊急事態宣言が解除の期間に集中して、楽しく魅力のある活動を工夫しながら行っていただいた。



### (3) 居場所づくり「さんさんパーク」

居場所づくり支援事業「さんさんパーク」では、水曜日の放課後と土曜日に楽しい企画や自由遊びを行っている。こちらも、コロナ禍のため緊急事態宣言中は自粛せざるを得なかったが、制限が解除された期間に、全学年満遍なく実施していただいた。子どもたちの生き生きした表情から、喜びと充実している様子が伝わってくる。



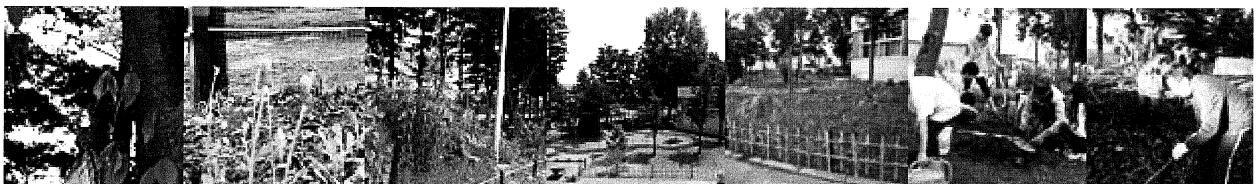
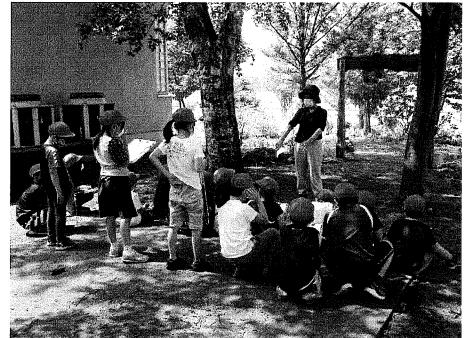
### (4) 見守り隊「にこにこパトロール」

オレンジ色のジャンバーやベストを着た「にこにこパトロール」の皆さん、子どもたちの登下校の様子を見守ってくれている。7年前からは、全校保護者による見守り活動も開始した。本年5月、「にこにこパトロールは、北海道警察釧路方面本部より「安全・安心なまちづくり」への貢献が認められ表彰された。



## 3 ビオトープ「ひかりの森」

平成21年、駐車場北側にビオトープを造った。在来野草の植物園を造ることで、生き物を大切にする心や環境保全の意識を育むことがねらいである。4年をかけ、雑草抜き取りなどの努力を重ねて、約50種の在来野草植物園ができた。平成25年に移転し、生物の生育や児童の学習条件がより良い校舎東側にビオトープを整備した。各季節の花もHPに紹介している。このビオトープの整備には、本校で退職した職員が長年にわたり携わってくれている。



## 4 おわりに

本年11月に、いよいよ広陽小学校にも学校運営協議会が発足し、コミュニティ・スクールがスタートする。広陽小学校は開校以来、地域と共に歩み、学習支援、図書ボランティア、放課後の居場所、登下校の見守り、学校敷地内の環境整備など、下地は十分整っている。

今後、10年20年先の未来を指向するとき、「地域にとっても大切な学校」であり、「学校にとっても大切な地域」として「わがふるさとを背負い立つ人材育成」が重要である。しっかりとした確実な基盤をつくるためにも、地域とともに丁寧に誠実に準備を進めて参りたい。

地域、保護者、学校が、取り組んできた特色ある教育活動を再整理し、その教育的価値を再確認し、一層の連携と協働を進め、地域に根ざした教育活動の継続に努めていきたい。